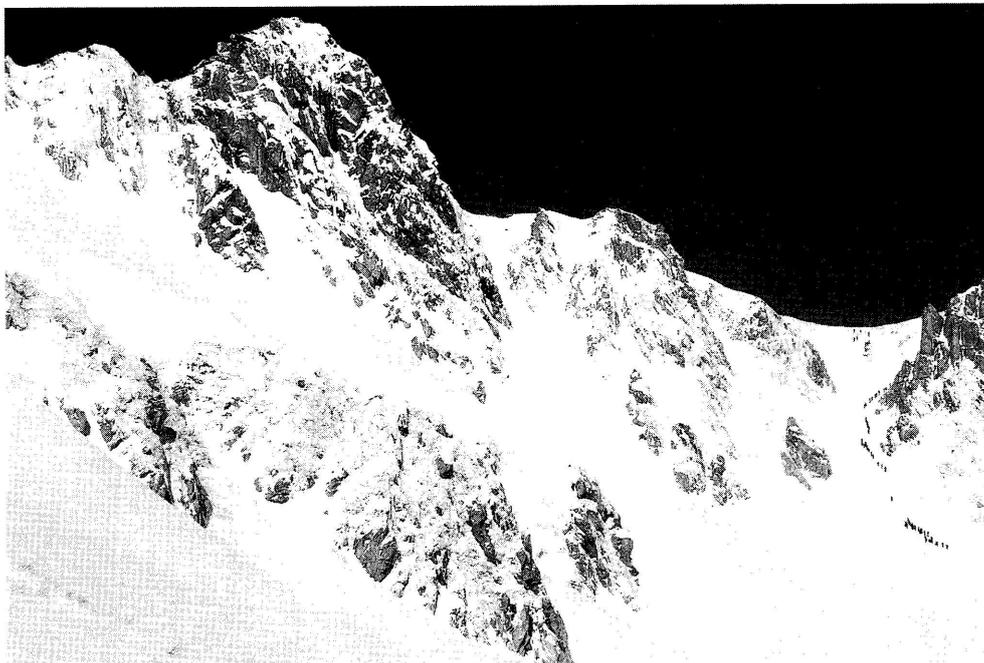


発行所 愛知県山岳連盟
 発行人 安藤 武典
 編集人 中平等 新一
 名古屋市天白区中平3-1902
 TEL&FAX 052-802-8062

◆ 4月13日(土) 愛知県山岳連盟定時総会(県スポ) <http://www.geocities.co.jp/Athlete/1653/>



厳冬の宝剣岳(中央アルプス)

前日の降雪で峰々は白く輝いた
 登山者は列をなして乗越浄土に向かって続く!

PHOTO 中平等新一

愛知岳連自然保護委員総会

指導員の勧誘に努めよう!!

2月19日(火)午後7時より県スポーツ会館に於いて、愛知岳連自然保護委員総会を開催し、安藤会長をはじめ自然保護指導員、自然保護委員ら15名が出席した。

初めに安藤会長から、自然保護委員会の活動は愛知岳連の活動の三本柱の一つであるとして「自然観察会などの活動を通して、人の輪を大切にしていってほしい」と挨拶があった。

まず、報告事項として11月23~25日埼玉県の「小川げんきプラザ」で平成30年度自然保護委員全国大会があり、各県の活動状況の中で、愛知県の取り組みとして、第42回から46回までの自然観察会の取り組みを報告した。

次に43回自然観察会(国立乗鞍青少年交流の家)、44回自然観察会(福井県ホノケ山)、45回自然観察会(あいち海上の森センター)、46回自然観察会(西ウレ峠周辺)の当委員会での活動について資料を基に報告をする。

続いて審議事項に入り、第47回の自然観察会は、5月18~19日「東海の尾瀬」といわれる池ヶ原湿原で自然観察を

行い、その後「国立乗鞍青少年交流の家」に宿泊し、夜はクライミング・ボルダリング体験や親睦会をし、翌日、山菜の収穫とてんぷらで昼食会を実施する。

また、10月19日に飛騨市にある「タンナカ高原」で自然観察会を実施。タンナカ高原は「東北の白神山地に次ぐ、日本第二のブナの原生林」といわれ、この時期はブナは紅葉のピークを迎え、全山黄色に染まる姿が期待できる。いずれも植物学者・小野木三郎先生に講師をお願いしております。また要望として昨年行った「キノコの観察会」を再度実施してほしいとの声があった。

最後にお知らせ事項として
 ①自然保護指導員の5年毎の更新について、今年度対象の3名の方が全員が更新され、新規の申込が1名あった。
 ②昨年に引き続き、愛知岳連の所属団体に自然保護委員の登録を働きかけていく。また、新たな指導員の獲得に向け、各指導員が自分の所属団体の中でも積極的に勧誘活動をしてもらうことをお願いして、総会を閉じた。

平成30年度自然保護委員総会 山岳自然保護の集い中央大会

山のトイレ、登山道など討議

11月23日から25日、埼玉県比企郡小川町の埼玉県立小川げんきプラザで開かれた「平成30年度自然保護委員総会」と「第42回山岳自然保護の集い中央大会」に参加した。

当日は、全国の都道府県の自然保護担当者と日本山岳スポーツクライミング協会の役員、地元埼玉県山岳連盟の方々100余名が参加した。

11月の3連休というこの時期、小高い山の山頂の会場周辺は素晴らしい紅葉に彩られ日光連山や谷川連峰まで見渡すことのできる素晴らしいロケーションに恵まれた場所での総会だった。

1日目は、自然保護委員長会議、開会式、基調講演、総会が行われた。

基調講演では、清水武司・秩父山岳連盟会長から「武甲山 頭部を落とされ、皮を削がれ無残な山容をさらし続ける山」と題して、武甲山の歴史や現状など生々しく報告された。

2日目は、午前中はセッション1として、各都道府県の活動状況の報告があり、愛知県は昨年度の総会以降の自然観察会の様子を報告した。

午後は、セッション2として、①次世代育成の実例と課題②山のトイレについて③登山道問題について④希少動植物の保全の4つのテーマについて報告と質疑が行われた。いずれも時間内には収まらず持ち越す結果になった。

山に近づくにつれ、甚だしく削り取られた山肌を目にして痛ましさを実感せざるを得なかった。山頂からは現在も盛んに掘られている石灰岩の採掘現場を見下ろすことができず。また山頂にある水洗トイレの水が不足するため、途中にある不動滝からペットボトルに入った水を各々の体力に応じて持ち上げた。

下山中に多くの登山者とは違い、地元で愛され、親しまれている山だということを実感した。

(自然保護委員長 栗木 洋明)

指導員資格の更新や事業協力！

指導員集會

去る2月2日(土)平成30年度指導員集會を刈谷市・中央生涯学習センター和室に於いて午後6時より行い、30年度の事業報告と次年度の事業計画について話し合った。

◆30年度の事業報告
・勉強会(テーマ・懸垂降下) 5/22名古屋、5/29豊橋、講師・高木、参加者17人

・6/2、3指導員総会(東京) 木田出席
・確保技術講習会(6/23、24 鞍ヶ池公園)

1日目22人参加、講師有富、多田、鈴木、高木、山本、中山、永田、森田
最初に全体で肩がらみの綱引きをする。開始早々に降りられ、初級、上級1はドーム下で基礎練習をした。上級2は中山氏がせっかく来ていた濡れになりながらやっていた。

宿泊は龍溪院で18人が参加。2日目19人参加、講師有富、多田、鈴木、高木、山本、中山、永田、田邊

朝から暑い一日となった。初級はドーム横で基礎練習の後、立木を支点に自己脱出、懸垂降下など行う。上級1は立木を支点に懸垂降下、自己脱出、登り返しなど行う。上級2は石垣でカムをセットして支点として懸垂降下、自己脱出など行った。(女性一人が気分悪くなり、水で冷やして安静にする)

・指導員総会 6/30 刈谷市・中央生涯学習センター(指導員名称の変更、夏山リーダーについて、義務研修の認定条件の変更など)
・8/18、19 夏山リーダー講師講習会
・8/26 SC確保講習会(暮らしの杜クライミングジム)

◆9/25、26 勉強会・搬送(名古屋、豊橋)
◆次年度の計画日程についてテーマをどうするか! 確保講習会の開催場所を今年同様鞍ヶ池公園にする。救助技術講習会も鈴鹿山系で行う。

今年度は全国の登山技術講習会があり大変だった。残りの事業についてもお手伝いをお願いしたい。

また、指導員資格の更新状況、指導員検定の独立開催、夏山講習などについて話し合い、8時45分終了した。

安心して選べる三河地区のプロショップ
JR刈谷駅前
穂高
〒448 刈谷市桜町1-13
TEL0566(23)8611
定休日/火曜日
営業時間/10:00~20:00

登山用品豊富!



CLIMBING PARK 東三河初のクライミング施設



住所: 愛知県豊橋市関屋町138番地 ☎0532-26-3737
<http://climbing-park.com>

MONTANA



住所: 愛知県豊橋市萱町5番地 ☎0532-55-0125 <http://www.montania.jp>

II ボルダリングジャパンカップII 倉選手健闘し5位入賞する

1月26、27日、第14回ボルダリングジャパンカップが東京都、駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場にて行われました。大会には推薦選手と予選通過選手を合わせ全国から男子71名、女子49名が出場。愛知県からは、佐野大輝選手、石井未来選手、倉菜々子選手、本多由梨奈選手の4名が出場しました。

ボルダリングは、制限時間内に与えられた課題をいくつ登れたか(完登)で順位を競います。

26日は、午前中に女子予選、午後から男子予選が行われました。予選は選手をA、Bの2グループに分け、各グループ上位10名が準決勝に進みます。準決勝進出をめざして予選の5課題に挑みました。結果は、倉選手がBグループ7位で準決勝に進出しました。27日は9時半から準決勝、14時から決勝でした。倉選手は、2完登3ゾーンで5位となり、6度目の出場での初決勝進出となりました。決勝は満員の観客の中、プロジェクトレーションマップピングを使った演出や選手紹介があり、

競技開始前から大変な盛り上がりでした。その中で登場した倉選手は、全力で課題に挑み結果は総合5位でした。各選手の総合成績は佐野選手47位、石井選手25位、本多選手35位でした。

来年はより多くの愛知県選手が本戦に出場できるように、これからも選手のサポートをしていきたいと思っております。今後ともスポーツクライミングへのご支援、ご協力を宜しくお願い致します。たくさんのお応援ありがとうございます。(常任理事・倉 要)

親睦スキー大会中止

長年、恒例にしていた愛知岳連親睦スキー大会が、参加者の減少で46回をもって中止になった。昨今の温暖化で雪不足と共に、スキー人口が減ったことの影響だろうか。大会中は、多くのスポンサーから協賛をいただきながら継続できなくなったことは残念です。今後はこれに替わる親睦行事の出来ることを望みます。(N)

印象に残った私の登山

21

北岳バットレス

名古屋山岳会
福島 弓子

自分が印象に残る登山は、好天の中、計画通り楽しく歩く登山ではなく、行きたい山に入るためトレイニングし、寒さやひもじさに耐えながら無事登山を終える登山だ。一昨年10月、北岳バットレスの下部フランク・ピラミッドフエース4尾根登山に経験豊富なパートナーと二人で行った。

1日目、広河原から歩いて第5支稜に取り付いたが、下部フランクからピラミッドフエースまでは岩が脆くホールドも取れそう。基本ツルベで登攀していたが、自分のリードに時間がかかり、今日中にバットレスを抜けられるか不安になる。しかし4尾根に出ると岩の様子がガラリと変わり、すごい安定感！そして大渋滞！我々は時々支点を取りながら、不安な所は時々確保してもらい、城塞ハンゲまではコンテで他パーティをどんどん抜いていった。城塞ハンゲのリードはパートナーが自分に譲ってくれた。渋滞のた

め早く抜けようとA0しようとした時、パートナーが『フリーで抜けてください』と言った。最初はイジメかと思っただが、フリーで抜けたらとても爽快で言われた意味がわかった。稜線に出て下山を開始する日が暮れてきた。計画時、ビバーク装備を指示されていたためビバークは想定内。標高約2900m。八本歯のコルにはその日滑落し、ビックアップできなかったご遺体があったためコル手前でツェルトを張る。飲み水が少なく、アルファ米も麦茶で戻した。シユラフカパーとマツトと、エマーゼンシーシートに包まるが寒い！自分は眠れなかったが、ペラペラのマツトとスケスケのシユラフカパーのパートナーはすぐに寝息を立て始める。21時過ぎ、寒さで眠れず外を見れば、満天の星と4尾根に光る渋滞のラテの列！3時、お茶で溶かした不味い卵スープを飲み行動開始。無事下山する。登山にはスピードと機転が必要だとパートナーから学んだ。ひもじくて寒い、でも、何より思い出に残る楽しい山行だった。

建設業許可を取りたい、日本国籍を取得したい(帰化)、遺言を公正証書で作成したい、戸籍謄本や除籍謄本を代行取得して欲しい、任意成年後見の相談をしたい、会計記帳を頼みたい等々

ご相談は行政書士の西山秀夫へ

〒460-0002 名古屋市中区丸の内3丁目21番21号
(地下鉄・久屋大通駅から徒歩2分) 丸の内東桜ビル1004号室

TEL: 090-4857-9130

URL: <http://www.nygs-office.com/>

うなぎ錦三丁目 い ば しょう
心む果

〒460-0003 名古屋市中区錦三丁目13番22号

TEL <052> 951-1166 番

営業時間 午前 11:00~午後 2:30

午後 4:00~午後 8:00

定休日 日曜日・第二・第三月曜日

「遭難を考える」講演会 御嶽山噴火 ～生還者の証言～

「遭難を考える」講演会が、去る11月30日(金)県スポーツ会館に於いて午後7時20分から、講師に山岳ガイド・小川さゆり氏を迎えて行われ、小川氏自身が噴火に遭遇した生還までの生々しい体験を語って頂いた。



噴火当日、私は、ガイド登山の下見に黒沢登山道を単独で登っていた。9月10、11日と火山性地震が50回を超えたニュースを見ていたがその後終息し、警戒レベルも1だったので噴火を意識することはなかった。

晴天、紅葉、そして土曜日という絶好の登山日和のなかで登山者全員が共通していたのは、「今日噴火するわけない」という警戒感の欠如であり、誰もが自然の厳しさ、恐ろしさを忘れていたと思う。頂上手前から横道を通り、八丁ダルミを経由して山頂の剣ヶ峰には11時30分に着いた。山頂の広場、一段下りた岩場や折袴所裏の岩場、合わせると剣ヶ峰だけで1000人ほどの登山者が晴天の山頂を満喫していた。登頂を喜ぶ登山者の楽しそうな会話や笑い声が溢れていた。

11時42分、私は折袴所脇を通り抜けお鉢廻りに歩き出した。後日知ったが、噴火10分前から火山性微動、地殻変動が確認されていたという。何らかの前兆はあったのかも知れない。ガスの臭いはしてはいたが、特別危険を感じさせられるほどではなく、落石などもなかった。登山者が感じるレベルの前兆は特になかったと思う。11時52分。剣ヶ峰からザレを下り、登り返す。一ノ池の外輪手前で背後から「ドドン」という、そう大きくない音を聞いた。振り返ると噴煙はすでに見上げるほど高く上がり、横にも急速に広がって見えた。青空には黒い粒が無数舞い上がった噴石だった。噴煙を見た瞬間「噴火した。嘘だろ」と思った。急速に発達する噴煙は、理屈抜きに危険が迫っているの存在感には十分すぎるほどの存在感だった。立ち止まり噴煙を見上げたことも、写真を撮ることもしていない。即座にその場でできる命を守る行動に移った。舞い上がった岩はいずれ落ちてくる。「頭を守らなければ」落石から身を守る対処法で登山道脇の岩に張りつ

き、できるだけ小さくなった。私がなんとか隠れる、そう大きくない岩だった。体が勝手に動いた。本能だったと思う。それと同時に視界を遮るキツイ臭いのガスに巻かれた。ガスを吸わないように襟を引っ張り出し口元にあてた。我慢していたが、苦しくて、酸素ではないので吸えば吸うだけ苦しくなっていく。吸い込んだガスのせいなのか、口の中は水分がなくジャリジャリで喉も張り付きそうだった。ルックザックを下ろし水やタオルを出すことさえ許されない。そんなことさえ命取りになるほど状況は緊迫していた。60秒ほどだったのではないだろうか。それ以上ならここで死んでいた。限界だと思ったその時、視界がうっすらと戻り、ガスの臭いは出ていたがなんとか呼吸が見えてきた。2分弱。舞い上がった噴石が空気を切り裂くような絶望的な音をたて大量に降ってきた。山肌につつきり、また空中で岩同士がぶつかり砕け四方八方に飛び散る。時速200、300kmとも言われている。周囲は焦げ臭い。噴石が凄まじい音をたてて体をかすめ飛んでいく。噴火だと思ってい即座に行動したもの、このうした状況を受け入れることが出来なかった。何かの間違ったと思いたかった。目の前の恐怖に、身近すぎる死にす

ぐには順応できなかつた。「このままだと死ぬ」その思いだけは強かった。噴煙を見てから6分後くらい、冷たい新鮮な空気が吹き込み、少しのあいだ噴石が止んだ。「頭が守れる岩陰を見つけないと」立ち上がり一ノ池方向の急斜面を駆け下り、大きな岩の下に不自然に空いた小さな穴を見つけた。突っ込んだ。153cmの私が、がんばっても背中半分しか入らない、そんな小さな穴だった。左足と両腕はなんとかねじ込んだが、腰と右足は入らなかった。そしてすぐに2回目の爆発があった。この時、私のいたお鉢は、目の前にかざした手のひらさえ見えない漆黒の闇となった。

この後50分は暗闇。生暖かいガスと冷たい空気が繰り返して絶えず来ていた。冷たい空気が来るとうっすら周りが見えた。暗闇のなか噴石が再び。山肌につつきり砕けた破片が右足にバチバチあたる。幸いダイレクトに飛んで来たものには当たらなかった。そして噴石が飛び交うなか火山灰がザンザン降り出し、あつという間にしゃがんでいる腰まで埋まった。熱くはなかつた。その灰を手が届く範囲で集め体を更に埋め、飛び散る噴石に備えた。目まぐるしく状況が変わる。この先の展開が想像できないこと、情報がないこと、とにかく恐怖だった。「まだ生きている」その声に出して生きていることを確認していた。

そして3回目の爆発があった。その爆発音は今までよりも凄まじく「噴火口は近い。いよいよ終わるか」生きて帰ることだけを必死に考えていた私にそう思わせた。たまに見える視界を、頭を突っ込んだ岩穴から肩越しに見ていると、噴石の大きさと量が今まで以上に凄まじくなっていた。噴火から1時間後。12時50分ころ。真っ暗闇の中、近くに雷が何本も走った。もはや雷など、どうでもよかった。恐ろしくなかつた。むしろ黒い色のなかで見るその光はとて綺麗だった。視界はないが、ゆつくりと大気が揺れるのを感じた。最初はぼんやりと、次第にはつきりとあつという間に視界が開けていった。私はお鉢の稜線と一ノ池の中腹の斜面にいた。そこから見た剣ヶ峰、一ノ池は黒い色の世界だった。そして不気味なくらい静かだった。私は噴火が終わったとは思っていなかった。次の爆発に備え全身の隠れる岩を探す行動に移った。降り積もった火山灰は小さな石の粒で、手ですくうとサラサラ零れ落ちた。膝上まで積もった火山灰を新雪をラッセルするかのようにも使い岩場を駆け上がると、稜線の大きな岩に張り付くように登山者がいた。この場所では私を含め5人の登山者が生きていた。1人が噴

石が当たり腰をケガしたと聞いた。私は全身が隠れる岩を探す行動を続けた。噴火が終わったと確信のないなかで、最優先すべきは「自分の命を守る」ことである。噴火口脇で、この先どうなっていくのか分からない非常事態のなか一人の命を守る」という選択は私にはなかった。自分の命を守ることさえギリギリだった。

稜線から一ノ池方向に下った。体を隠せる岩を見つけたことが出来ないまま岩場の最終地点まで下りてしまった。セメントのような雨が降って来たので手早く雨具の上着を身に付けた。

一ノ池を突っ切り、二ノ池のガレまで400m弱。噴火口から離れる最短ルート。しかし、一ノ池で再び噴火すれば遮るものはない。やられる積もった火山灰は浮石だらけの急斜面を隠していた。視界を駆け下りるように二ノ池のガレ目指して飛び出した。

二ノ池のガレで隠れる岩を探したがよさそうなものがない、空が明るくなってきたのを見てこのままガレを駆け下り二ノ池本館に行こうと決めた。その距離300mくらいだろうか。私は勢いでここまで来てしまったが、稜線で会ったケガをした登山者が気になつて来た。ヘリがすぐ近くに助に来るとは思わなかつたが、ケガ人がいることと、その場所を一刻も早く伝えたい

つた。笛を吹きながらガレを駆け下りた。早く気付いてほしかった。しかし二ノ池本館はすでに避難をした後か人の気配を感じられず、黒沢登山道にある覚明堂避難小屋を指した。登山道に出ると灰はうつつら5cmほど積もつていて誰の足跡もなかった。

13時10分ごろ。登山道を走り覚明堂に飛び込んだ。黒沢登山道は黄色いヘルメットを被った登山者が長い列ができ、すでに避難がはじまっていた。小屋で、ケガをした登山者の救助要請を話してもらい、小屋から下の登山道は灰がうつつら積もつていただけだったが、その灰がともも滑りやすく多くの登山者が転倒していた。皆言葉少なく慎重に歩いていた。噴火は、突然、激しく始まり、正味1時間、終息していった。

私のいた場所は地獄谷の延長線上、今回新たに形成された噴火口から地形図で計ると350mほどの所だった。凄まじい噴石と爆発音を思い出せば納得できる。そんな場所から私はなぜ生きて帰つてこられたのか。

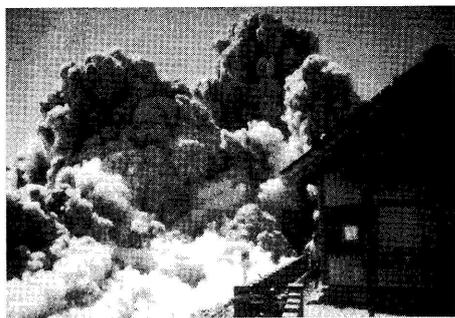
それは「運がよかつたから」だとは思つてはいない。忘れてはならないだろうか。この日の場所、噴火に遭うなんて、どれほど運が悪いのかを、噴石が多数飛来した剣ヶ峰八丁ダルミ、王滝奥の院、お鉢でも噴石さえ凌げれば、あの噴煙の中でも生き残る可能

性は高かつた。剣ヶ峰は噴石を凌げた頂上の折袴所のひさしの下、直下の山小屋に避難した登山者は助かつている。八丁ダルミ、王滝奥の院、お鉢は近くに身を隠せる岩があったのが生死を分けた。

非公開の噴火直後の剣ヶ峰の写真がある。多くの登山者は噴煙を見上げていて、噴煙にカメラを向けている。その数秒後に撮られた写真でも、まだ避難を開始せずに写真撮り続けている登山者は多い。

「なぜ逃げない」。その写真は、同じ噴煙を見たはずの私には異様に信じがたく、苦しくなつてしまう光景である。あの時、自分の命を守ることに外すべきである。何もなくつたはずである。

〔活火山に登る心構え〕
活火山に「登らない」。この斬新かつ確実な選択以外で



噴火から命を守るにはどうしたらいいのだろうか。現に日本百名山のうち32座は活火山である。

ガスを直接吸わないようにタオルを首からかけ、火口周辺では長く休まない。少しでも異変を感じたら速やかに火口から離れ、万が一噴火したら即座に命を守る行動に移る。小屋かシェルターがあれば逃げ込む。小屋も噴石の直撃があれば必ずしも安全ではないので、できるだけ下の階に移り、柱や梁など構造上強度のある所に身を寄せる。岩陰に逃げ込む。噴石は地面や岩同士ぶつかり砕け四方八方に飛び散るので、とにかくあるもので頭を守る。あとは噴火が終わることを祈り、生きて帰ることを絶対に諦めない。登山者が噴火という自然現象に遭遇したとき、できることはせいぜいこれくらいだろう。何が正解なのかは結果からでしか分からない。

自然を取り巻く環境は変わり、どれほど便利に快適になつたとしても、山は時として命と向き合う場所であることは変わらない。自然の厳しさは昔も今も、この先も変わらない。変えられるとすれば、登山者の向き合い方だけではないだろうか。美しさも恐ろしさも知つて山と向き合うことができるのなら、山はより素晴らしい姿を、感動を、登山者に与え続けてくれる場所である。

Renopoint
<http://www.renopoint.jp>
Original Wear & Goods
 オリジナルウェア・CMウェア (広告掲載)
 カジュアルユニフォーム&グッズ
 デザイン・企画・制作
 お気軽にお問合せ下さい。
 特許出願 GLASS PERCH(グラスパチ)
 株式会社リノポイント 〒491-0835 愛知県一宮市あずら1-5-7
 TEL:0586-58-5021 FAX:0586-58-5022 E-mail: ito@renopoint.jp

名古屋駅前の山用品専門店
駅前アルスス
 〒450-0002
 名古屋市中村区名駅4-4-10
 名古屋クロスコートタワー 1F
 TEL 052-565-1417



冬山登山報告

鳳凰三山 地藏岳 12.22～24

やまびこ山想会

・メンバー 中西恭子、岩月玲

5年前の冬合宿で登った鳳凰二山、残り一つの地藏岳を... 距離は短縮できるルートだが、距離が短いということ... 注意しながら登り続け、まずは、第一関門の燕頭山まで...

が軽いと心も軽くなる。疲労はあるものの念願の地藏岳オベリスクを間近に見られるかと思うとわくわくして来た。樹林帯を抜けると視界が開け、だんだんとオベリスクが近づいてきて、登りきると賽ノ河原に出た。やつの思いで辿り着いたオベリスクをバックに記念撮影をして満足し下山。あつという間にテン場に...

常任理事会

▼1月8日(火) 萬珍館

- (出席者) 安藤会長、高橋副会長、北村理事長、岩瀬副理事長、相山、倉、高木、木田、木田(陽)、多田、栗木、星各常任理事、中平等顧問

報告事項

- 1. 冬山遭難対策会議・気象予報(12/18県スポ) 高橋
- 2. 第9回全国高等学校選抜クライミング選手権(12/24〜26埼玉) 倉

審議・お知らせ事項

- 1. 指導員集会(1/8豊橋市生涯センター) 2/2刈谷
- 2. 第2回高体連登山部委員会(1/15県教育会館)
- 3. ボルダリングジャパンカップ(1/26〜27駒沢) 倉
- 4. 第3回登山勉強会(2/5県スポ) 2/19豊橋
- 5. 第47回岳連親睦スキー大会(2/17中山協)
- 6. 全国理事長会議(2/17(2/16〜17大山))
- 7. 全国理事長会議(2/17(2/16〜17大山))
- 8. 自然保護委員総会(2/19県スポ)
- 9. 専門基礎理論検定会(2/26県スポ)
- 10. 愛知山岳マラソン(3/2猿投山)

▼2月12日(火) 名工大会議室

- (出席者) 安藤会長、高橋副会長、北村理事長、岩瀬副理事長、相山、多田、星、木田(陽)、倉、栗木、渡辺、岩狹、谷澤、高木各常任理事、中平等顧問

報告事項

- 1. 第2回登山部委員会(1/15県教育会館) 渡辺
- 2. ボルダリングジャパンカップ(1/26〜27駒沢) 倉
- 3. 指導員集会(2/2刈谷市生涯センター) 高木
- 4. クライミング(審判、ルートセッター) 研修会(2/2〜3三重)
- 5. 第3回登山勉強会(2/5県スポ) 2/19豊橋

審議・お知らせ事項

- 1. 第47回岳連親睦スキー大会(2/17中山協)
- 2. 日山協・氷雪技術研修会(2/16〜17大山)
- 3. 全国理事長会議(2/17(2/16〜17大山))
- 4. 自然保護委員総会(2/19県スポ) 栗木
- 5. 専門基礎理論検定会(2/26県スポ)
- 6. 愛知山岳マラソン(3/2猿投山) 岩瀬
- 7. リードジャパンカップ(3/2〜3千葉)
- 8. JAC東海支部主催講演

ALPINE ツア サービス 海外トレッキング/世界の山旅 専門旅行会社 まずは「ツアーカタログ」ご請求下さい 個人&グループでのご利用お待ち申し上げます 名古屋営業所 TEL: 052-581-3211 〒450-0002 名古屋市東区名駅3-23-2 第3千禧ビル3階 FAX: 052-561-8338 E-mail: nagoya@alpine-tour.com ホームページ http://www.alpine-tour.com

訂正 前号で、愛知県山岳連盟定時総会の日時を4月20日(土)と掲載しましたが、4月13日(土)に変更となりました。ご了承下さい。